

■教育目的

「天然物由来の薬物」である生薬は、古来より医薬品として利用されてきた。これを踏まえ、医薬品としての生薬ならびに医薬品開発における天然薬物の重要性、特に代表的な薬用植物や生薬について含有される薬効成分などを中心に幅広く理解し、あわせて、現代医療に用いられている主な漢方処方についても概説できることを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針:薬 YD-①、YD-②、YD-③】

■学習到達目標

1. 自然が生み出す薬物として、薬になる動植物について理解する。(知識)
2. 薬の宝庫としての天然物を理解する。(知識・技能)
3. 現代医療の中の漢方処方を通じて、それを構成する生薬について理解する。(知識・態度)

■準備学習（予習・復習）

予習：Web 配布資料をもとに、教科書など関連する箇所を目を通しておく。(20 分以上)

復習：毎回の Web 課題に解答し、フィードバック、教科書、配布プリントなどで講義内容が理解出来ているか確認する。(30 分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	生薬とは	生薬の歴史・生薬から医薬品の誕生	
2	基原植物の形態と分類	生薬の基原植物の形態と分類 基原植物、生薬の学名と命名法	
3	生薬の品質評価	生薬の品質評価 日本薬局方の生薬関連事項 通則、生薬総則、一般試験法など	
4	生薬の分類	生薬の薬効分類・化学的分類 主要含有成分の基本構造など	
5	生薬とマラリア	人類の病気との闘いと生薬	
6～7	現代医療の中の漢方薬・生薬(1～2)	現代医療において汎用される漢方薬・生薬の実際	
8～14	主な生薬とその成分など	漢方薬などに用いられる代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	
15	注意を要する生薬・まとめ	取扱に注意を要する生薬について まとめ	

■授業分担者

馬場 正樹(No.1～4・8～15)、島根 涼(No.6～7)、小林 照幸(非常勤講師)(No.5)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

質問は随時受け付け、その一部は次回講義で解説する。また、学習相談等で試験に関するフィードバックも行う。

期末試験(80%)、Web 課題等(20%)で総合評価する。

■教科書

『パートナー生薬学 改訂第4版増補』木内文之ら 編(南江堂)

■参考書

『実践 漢方生薬学 第2版』小池一男ら編 (京都廣川書店)